

基礎データ (令和2年10月1日現在) 出典: 2020年度国勢調査 人口・世帯関係データ

○地図



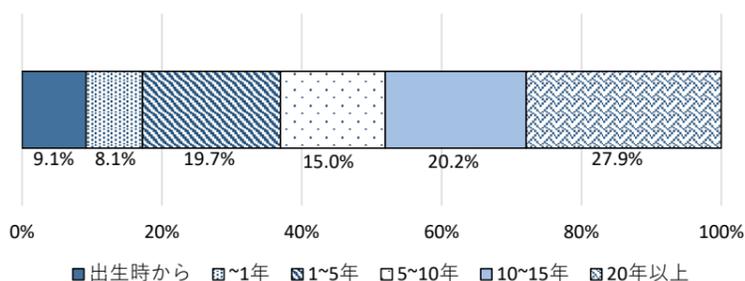
○人口データ

人口	31,102 人 (7.4%)	【 市 417,496 人 】
男性	14,927 人 (7.4%)	【 市 202,029 人 】
女性	16,175 人 (7.5%)	【 市 215,467 人 】
平均年齢	44.9 歳	【 市 47.5 歳 】
高齢化率	22.5 %	【 市 27.6 % 】
後期高齢化率	10.9 %	【 市 13.9 % 】
外国人数	188 人 (5.3%)	【 市 3,577 人 】

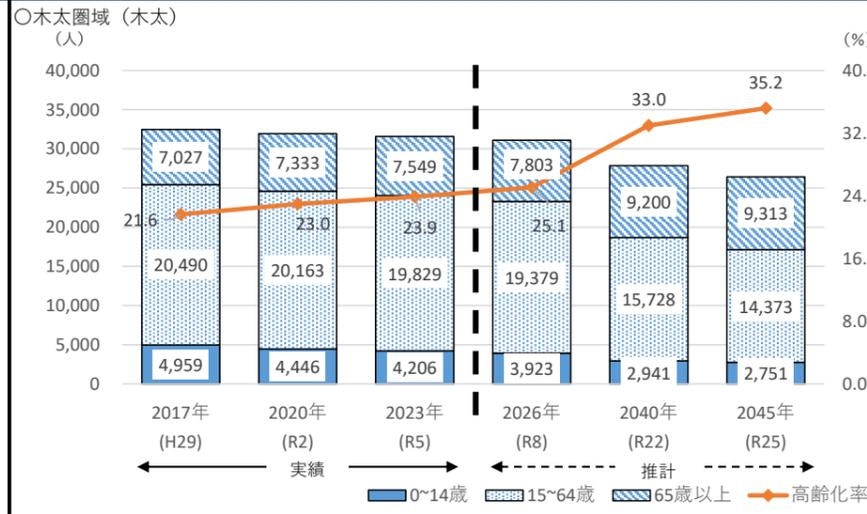
○世帯データ

総世帯数	14,165 世帯 (7.6%)	【 市 187,144 世帯 】
核家族世帯数	8,014 世帯 (7.8%)	【 市 103,254 世帯 】
(核家族世帯率)	56.6 %	【 市 55.2 % 】
18歳未満同居数	3,061 世帯 (8.2%)	【 市 37,246 世帯 】
(18歳未満同居率)	21.6 %	【 市 19.9 % 】
65歳以上世帯員を含む世帯数	4,615 世帯 (6.4%)	【 市 72,524 世帯 】
(65歳以上同居率)	32.6 %	【 市 38.8 % 】
高齢者のみの世帯数	2,982 世帯 (6.7%)	【 市 44,722 世帯 】
(高齢者のみの世帯率)	21.1 %	【 市 23.9 % 】
高齢者独居世帯	1,549 世帯 (6.9%)	【 市 22,457 世帯 】
(高齢者独居世帯率)	10.9 %	【 市 12.0 % 】
3世代同居	302 世帯 (5.2%)	【 市 5,850 世帯 】
(3世代同居率)	2.1 %	【 市 3.1 % 】

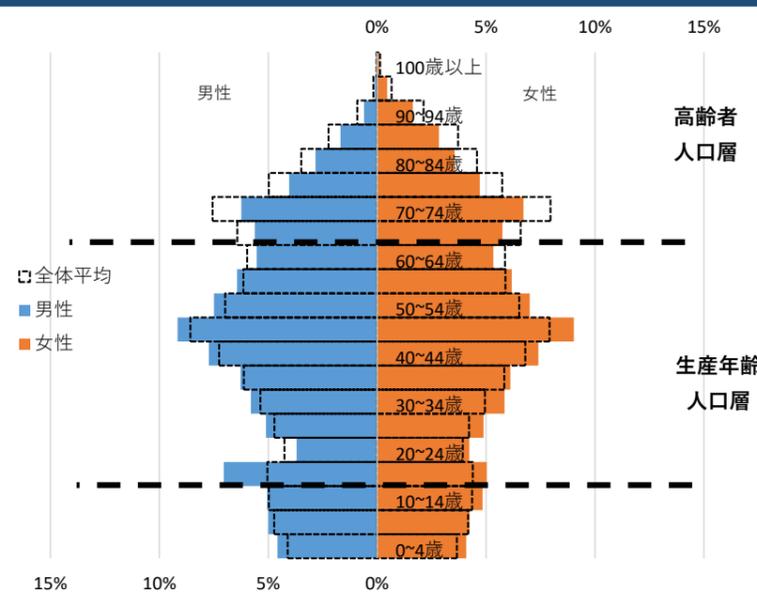
○居住年数別人口構成比



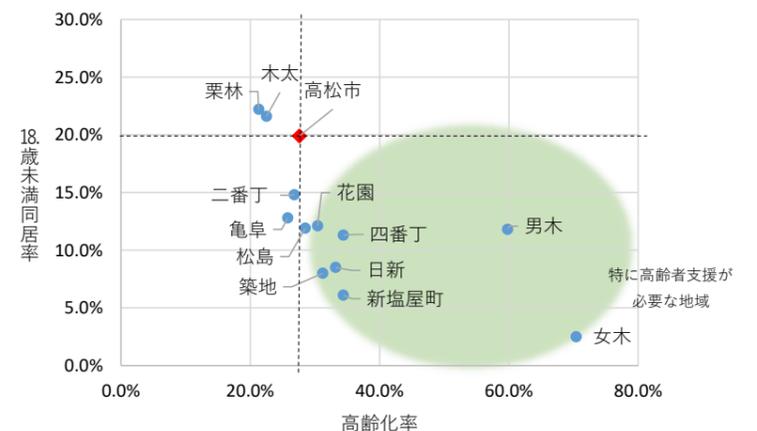
○人口推計グラフ (実績: 住民基本台帳各年10月1日 推計: 高齢者保健福祉計画)



○年齢層別人口分布割合ピラミッド



○18歳未満同居率/高齢化率散布図



○地域資源データ

医療機関 (令和7年10月)

21	医療情報ネット (ナビイ) より
----	------------------

歯科医院 (令和7年10月)

13	医療情報ネット (ナビイ) より
----	------------------

介護サービス (令和7年4月)

居宅介護支援事業所	12	訪問型サービス	21
通所型サービス	8	地域密着型サービス	9
施設系サービス	4	サービスB	0

買い物施設等 (令和7年10月)

コンビニ	スーパー・商店	ドラッグストア	郵便局・金融機関
8	9	4	6 (※ATMのみ17カ所)

高齢者の居場所 (令和7年7月)

10	木太町本村居場所づくりおいでませ、木太中央寿会、向井公民館、北部会館クラブ、木太下川ほがらか会、木太囲碁同好会、囲碁サロン木太、上川元気になろう会、山をゆっくり歩こう会、Green harmony恭葉
----	--

老人クラブの活動・コミセン活動・認知症カフェの活動等 (令和7年10月)

コミセン活動: 3カ所 (木太、木太北部、木太南部) のコミュニティセンターで、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に講座を開催している。
認知症カフェ: カマタマカフェ、smileひろば

老人介護支援センターの活動 (令和7年10月)

さくら荘老人介護支援センター (木太南部小学校校区) 法寿苑老人介護支援センター (木太・木太北部小学校区) 包括のランチとしての役割と地域の高齢者に関する相談窓口としての役割を担う。
年間4回程度講座を開催、地域に Outreach 出前講座も年間2回程度開催。地域福祉ネットワーク会議のメンバーとしても企画の段階から関わる。地域住民からの相談窓口の受け皿としての役割も大きい。

○地域特徴分析

地域特性

- ・地区の歴史を辿ると、八坂神社の御神木にもなっている楠の木は、『あまから水祭り』の起源にもなっている昔話から祀られている。また、地区名は『希代なりきだーきた』と変遷してきたと言われており、『木太は一つ』の考え方が地区内に広がっている。
- ・市内は3つのコミュニティ協議会(木太北部、木太、木太南)で構成されている。
- ・地区の文化協会が、「木太町ウォーキングコース」として9コース選定されている。地区全体では保健委員会が中心となり、検診受診をはじめ健康づくり活動にも力を入れている。
- ・市内のコミュニティ協議会の中でも人口が最も多い地区。市全体の高齢化率と比較しても、低く、人口ピラミッドをみると生産年齢人口も比較的多く、18歳未満の同居率も高い。
- ・地区内を詰田川、春日川が流れ、海岸からも比較的近く、H16年の高潮で北側の地域が浸水し多大な被害が出た。
- ・今後起こると言われている南海トラフ巨大地震でも北側地域は浸水することが想定されている。

主な地区活動

- ・地区内でのウォーキングを定期的実施している。あまから水祭りなど地域の活動も盛ん。
- ・地域福祉ネットワーク会議: 主に災害時の避難要支援者への支援 (把握も含め) について検討を重ねている。要支援者リストを元に定期的に、民生委員、自治会長、自主防災組織のメンバーと共に現状把握している。それをマップに落とし込み把握している。南海トラフ巨大地震の被害想定では、北側の地域は浸水が想定されている。コミ協、自主防災組織の構成員もメンバーとなり、マニュアル作成等取り組んでいる。地区全域に、防災ハンドブックを配布し、平時からの取組についても周知啓発を行っている。

